

べてオンラインで行われた。

この議論の中で当部会から発信できるものとして、1) VR (Virtual Reality) と視聴覚教材、2) LMS (Learning Management System) と e ラーニング、3) ICT 活用の反転授業、4) コンテンツオーサリング、5) ICT プラットフォームの使い方、6) 教育用素材集サイトの構築などのテーマごとにワーキンググループを立ち上げで取り組んでいる。具体的な活動として、第 53 回日本医学教育学会大会において「学会が誇る(?) エキスパートと学ぶ ICT 教育ツールの使い方」と題したワークショップを開催した。

これもまた「遠隔でもかなり医学教育ができる」の象徴的なこととして、文部科学省主催

の「令和 3 年度医学・歯学教育指導者のためのワークショップ」および「令和 3 年度薬学教育指導者のためのワークショップ」の開催を支援した。両者ともに 2020 年の開催は見送られたが、2021 年は Zoom によるフルオンラインで開催したいとの文部科学省からの要望が当学会にあり、学会執行部からの指示を受けて ICT サポートを行った。

副部長：西屋克己（担当理事）、部会員：浅田義和、大久保由美子、小林直人、橋本忠幸、藤田博一、Breugelmans Raoul、松下毅彦、村岡千種、門川俊明、山本憲、担当理事：椎橋実智男

*1 Information and Communication Technology Subcommittee

*2 Michio Shiibashi

19. 学習者評価部会^{*1}

田川 まさみ^{*2}（委員長・鹿児島大学医歯学総合研究科医歯学教育開発センター）

学習者評価に関する学会活動は、これまで委員会として実施していたが、2020 年より自由に議論を行う部会となった。当部会では、卒前教育、臨床研修、専門医研修での学習者評価について、部会員の様々な立場、経験から教育や評価の指針や制度、各教育現場での現状と課題を議論してきた。評価は学習者の望ましい学習を推進し、医療者の質保証に直結する重要な役割を担っている。そのために医学部教育では共用試験の公的化、POST-CC OSCE の正式実施、臨床研修で利用されている EPOC に類似した CC-EPOC の導入が始まっているにもかかわらず、実際の教育現場では困難な状況もある。制度の改変、新しい教育・評価方法の導入だけでは改善につながらない学習者評価について、学会の立場を活用して、評価を行う人、される人

にとって有用な発信を行っていくべきと結論した。

当部会は、1) 評価する側、評価される側の意見を関係者が共有し、問題点を正しく理解する、2) 望ましい評価を実施するために必要は情報を、評価をする人に提供する、3) 情報には教育学的根拠、適応や活用の方法を具体的に分かりやすく示し、現場の問題解決に役立つものとする、4) 優れた評価により望ましい学習を推進するという考えに基づき、フィードバックに有用なナラティブな評価を紹介することを目指すこととした。

これらを達成する活動として、2021 年第 53 回日本医学教育学会学術大会では、ワークショップ「医師育成過程を俯瞰した望ましい評価を考える」をテーマに、研修医の問題行動事